



野原 恵子 議員
(日本共産党
幕別町議員団)



公共施設等総合管理計画は、必ずしも自治体に策定義務があるわけではない。しかし、国の要請どおりに策定しなければ、地方財政措置において不利となる可能性がある。

平成29年3月、町は「幕別町公共施設等総合管理計画」を策定した。計画では、公共施設の統廃合を進め、公共施設の数、床面積の10%削減、受益者負担などによる公費負担の削減にポイントが置かれている。公共施設は、施設の運営や更新という枠組みにとどまるだけではなく、何よりも公共サービスを提供する施設であり、採算を基準に配置するものではない。施設の統廃合は、社会的、経済的に大きな影響を伴う。

町として急がれる改修として、老朽化している障がい者の作業施設、アイヌ文化保存会などが利用されている施設、子供が急増し増築しても施設が整わない学校、町民プールなどの改修計画を明確にして進めるべきである。次の施設

問 急がれる公共施設の改修を

答 長期的視点に立った公共施設のあり方について、財政的な負担を含めて検討する

の改修計画について伺う。

- ① ひまわりの家、② 千住生活館、③ 各小中学校、④ 各町民プール

町長 ① ひまわりの家は、旧白人中学校の校舎の一部を改修し、

平成18年以降は、制度改正などによる段階を経て、現在の社会福祉法人が就労継続支援B型事業、生活介護事業、相談支援事業など、障がい福祉サービス事業を行っている。同法人からは、当面、現施設を利用していくと聞いている。

② 千住生活館は、地域住民の生活上の相談、指導および保健衛生等の事業を総合的に実施し、生活文化の向上を図るため、昭和38年に建築し、現在は主に共同入浴事業、アイヌ文化保存会の活動場所として利用されている。国会において

審議中のアイヌ新法案では、地域や産業、観光振興に向けた取組を支える交付金制度の創設が予定されており、蝦夷文化考古館や近隣センター機能を含め、交付金の活用についての研究を進めたい。

③ 各小中学校は、昭和50年代に建築したものが多く、老朽化が進んでいる。広範囲に及ぶ外壁の損傷や配管の更新は、部分的な改修では機能の維持が困難で、抜本的な老朽化対策が必要である。現在、

文部科学省の支援ツールを活用し、学校の基本状況や整備状況等を入力するなど、計画策定に向けた準備を進めている。今後、平成31年度中に同省が定める評価基準に基づき劣化度調査を実施し、32年度を目的に、学校ごとの将来の

維持・更新コストを算出して、長寿命化計画を策定するとともに、個別の改修は、3か年実施計画に位置付け、順次計画的な整備を実施したい。

④ 町民プールは、昭和42年から平成5年にかけて6か所を建設、一部施設では老朽化が進み、必要に応じた補修を行い、施設の維持管理に努めている。札内東町民プールは建設後50年以上経過し、老朽化が著しく、札内地区の他の2か所のプールも30年近く経過し、今

後の改修や建て替えを検討しなければならぬ。将来の人口減少や児童数の減少、さらには今後の公共施設の適正配置などを総合的に考慮し、単独での建て替えの場合と札内地区に統合プールを設置することも含めて検討を進めてきた。しかしながら、札内東町民プール単独での建て替えは効率的ではなく、他の二つの町民プールは今後20年程度は使用可能であり、必要に応じた改修等により現施設の有効活用を図りつつ、札内地区のプールのあり方について、各学校やPTAなどと意見交換を行い、慎重に方向性を見いだしたい。今後は、これら公共施設も含め、各施設の現状や利用状況、住民ニーズを把握し、長期的視点に立った公共施設のあり方について、財政的な負担も含め、検討していく必要がある。



老朽化する千住生活館